

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	豊橋技術科学大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トヨハシギジュツカガクダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	愛知県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	実務訓練
	学部・研究科等名	工学部
	担当教職員名・役職	全教員(指導学生を受け持つ助教以上)ノ教務課キャリア教育支援係
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	456	
受入企業等数	259	
受入企業等名	https://www.tut.ac.jp/university/training.html	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 2.有給インターンシップ 3.海外インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 11.その他	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	キャリア支援や就職活動の一環としてのインターンシップとは一線を画し、学生の育成に明確に目的をおいた教育プログラムとして、学部4年次の必修科目として「実務訓練」を、開学以来約40年継続実施している。	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業や研究機関等で研究・開発・設計などの実務を経験し、技術者や研究者が何を課題として捉え、どのように課題解決に取り組んでいるのか、その現場を体験して自分自身の肌で体感させる。さらに、その就業体験を通して動機づけられる実践的・創造的思考力を、続く大学院での教育で醸成させる。この教育的趣旨に賛同して受け入れる企業等に対し、学生の指導教員が配属先や履修テーマを確認し、期間中の学生の指導を委嘱する。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	学部4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	6単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「実践的・創造的な能力を備えた指導的技術者の養成」をミッションとする豊橋技術科学大学の教育システムのコアとして、学部4年生の最後の2か月間(1~2月)の必修科目として「実務訓練」を課している。社会との密接な接触を通じて指導的な技術者として必要な人間性の陶冶を図るとともに、実践的な技術感覚を体得させることを目的としている。指導教員の共同研究先でその研究プロジェクトや関連テーマを実施するケースもある。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	300社以上ある受入れ可能機関から希望先を選ぶための企業や事業の調査、指導教員と一緒に訓練テーマを協議・検討することなども、事前学習の一環となっている。

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	実務訓練期間中に学生は中間報告書を提出する。また、指導教員が企業等に赴いて、学生だけではなく指導責任者や担当者との面談も実施している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	履修学生全員を対象に、実務訓練履修説明会を4年次の7月と12月の2回開催する。7月には実務訓練の趣旨・意義及び心構えを中心に講義する。また12月には、知的財産の講義、外部講師によるマナー講座に加え、再度実務訓練に向けての心構えを再度講義する。また、海外実務訓練を促進するために3年次の後半から海外実務訓練の説明会や履修生の体験報告会などを実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実務訓練終了後に、各課程にて実務訓練報告会を実施して、訓練の実施内容と成果を発表する。それに基づいて、単位認定の判定を行う。また、修士までの一環教育を原則とする本学の教育システムにおいて、この実務訓練の経験を通して動機づけられる実践的・創造的思考力を、続く大学院での教育のなかで醸成させることが、事後学習としての重要な位置づけとなっている。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実務訓練期間中に、指導教員が実務訓練先を訪問して、企業の指導責任者及び学生と面談し、訓練の実施状況などの確認を行う。またその際に、教育効果や受け入れに関する課題や要望、翌年度の受け入れ等についても協議する。学生は実務訓練から約1か月経過した時点で中間報告書を作成して提出する。
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	学生に対して、実施前に指導教員、実施後に実務訓練派遣先がそれぞれ教育効果に関する調査も併せて行い、学生の教育的効果を測定している。
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	指導教員が実務訓練先を訪問し、教育的効果について指導責任者等より意見を得る。訓練終了時に本学指定書式の評定書、教育効果に関する調査、実務訓練実施に関する要望書の提出を受ける。学生は、中間報告書、終了後のレポート提出、および実務訓練報告会で発表し、各課程で総合的に成果を判定する。さらに学生への事前事後調査を実施し、実務訓練を通じて自己の意識や行動の変容について自己評価を行う。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施標準日数34日
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
要素⑥	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学部4年次の必修科目として位置づけられており、冬期休業終了日の翌日から、後期定期試験開始日の前日までを実務訓練期間とし、土日、祝日を除く期間を実日数で算出し、必要な日数(時間数)を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	

	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実務訓練の趣旨に賛同する企業に対し、毎年、受入れ可否・条件を照会し、受入可能機関一覧を作成し、維持・開拓を行う。訓練テーマは指導教員と学生が受入先と協議して決定する。訓練中は、指導教員が企業側の学生の訓練指導責任者に教育を委嘱する。派遣先への訪問、アンケート、学生の実施レポート・報告会などで成果を評価。学内の実務訓練委員会での情報共有・協議、さらに外部諮問委員会によるアドバイスも得ている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	実務訓練全体に関して https://www.tut.ac.jp/university/training.html シラバス https://kyomu.office.tut.ac.jp/portal/public/syllabus/ ※科目に「実務訓練」と記入し、検索すると閲覧可能。
問い合わせ先	大学等名	豊橋技術科学大学
	担当部署名	教務課キャリア教育支援係
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	岡崎志乃
	電話番号	0532-44-6595
	メールアドレス	career@office.tut.ac.jp